

## I 実践

### 1 研究主題 互いに認め合い、尊重し合う心を育てる人権教育のあり方

#### (1) 主題設定の理由

人権教育は、学校の教育活動全体を通して人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動である。本校では、『だれに対してもわけへだてをせず、お互いに認め合い、仲良く助け合う』子どもの育成を人権教育の目標としている。

本校児童は、全体的には明るく素直であるが、時として自己中心的になったり相手を思いやる配慮に欠ける行動を起こしたりする児童も見られる。

そこで、学校の教育活動全体を通して、一人一人がお互いを認め合い、尊重しあえる態度を育成することをねらいとして本主題を設定した。

#### (2) 研究の内容

- ア 学級の実態把握と学級活動の充実
- イ 道徳教育の充実
- ウ 保護者や地域に広げる人権意識高揚のための活動

### 2 実践内容

#### (1) Q-Uの実施（学級集団アセスメント）とソーシャルスキル・トレーニング（SST）

##### ア Q-Uの実施

学級集団全体の状態をデータとして把握するとともに、特別に支援を必要とする児童を把握するため、2年生以上の各学級で5月・12月に実施している。5月の実態を踏まえ、今後の対策を計画・実行し、12月の結果から更に改善を目指して取り組むように計画されている。

Q-Uの集計結果は、二次元の表にまとめる。その分布がどのような形になっているかという特徴から、学級を「満足型」「管理型」「なれ合い型」「荒れ始め型」「崩壊型」の5つの状態で捉えやすくなるため、個別に支援すべき児童に応じた対応が試みやすくなり、その後の児童の変容も把握することができた。

##### イ ソーシャルスキル・トレーニング（SST）

～2年生（学級活動「ナイスフォローをみにつけよう。」）の取り組み～

「フォローとお節介のちがひ」「お互いを認め合う」とは実際にどのような行動をとればよいのか、具体的な場を想定して考え、ロールプレイによる練習を通して適切な行動がとれるように実施してきた。

学級の実態に応じて取り組んだ内容には若干の相違はあるが、「友達が一生懸命やって失敗したときには」「腹が立ったときには」など、対人関係を重視した内容のものが多く。

「友達が一生懸命やって失敗したときには」の場合では、グループ活動の際に仲間の失敗から、自分が取った行動でどのような影響があるのかを話し合う。手助けがお節介にならず、お互い気持ちよく生活できるように「フォローする」行動をとることが、相手にも自分にもグループ全体にもよい方法であることに気づく。実践後の子どもたちには、日常の生活の折々の中で、「いいよ」「ドンマイ」「やってあげるよ」「次、がんばろう」などのはげましや相手を認める言葉や行動が見られるようになった。帰りの会では、失敗してしまった児童から、助けてもらったお礼や、はげましてくれた友達を紹介する「ナイスフォロー」発表が多く出されるようになった。

## (2) 道徳教育の取り組み

12月の授業参観では、全学年全クラスにおいて道徳の授業を公開した。この試みは保護者に道徳教育の必要性を理解してもらうことと、人権教育に関する啓発をねらいとするものである。また、学年だよりで啓発内容を掲載したり教室に道徳コーナーを設定することで、学習したことが意識化だけにとどまらず道徳的実践力へとつながるように工夫してきた。

## (3) 第4学年親子学習会「アイメイトとの生活」について

盲導犬（アイメイト）と共に生活をされている地域の方をゲストティーチャーとして招待し、お話をしていただき、実際に目の不自由な方へのサポートの仕方を親子で体験したりすることで、視覚に障害をもつ人への理解や共感の心を深めることができた。

また、多くの子ども達が、目の不自由な方にとって町には不便な場所が多いことを知ることができた。さらに本実践を通し、視覚障害者の立場に立ってもっと詳しく町を見てみたいと関心をもった児童が、社会科の自由研究に取り組む契機ともなった。



## (4) 「人権メッセージ」の取り組み

道徳の時間や夏休みの課題など、学年の実態に応じて7月より全校で取り組み、各学級でとりまとめを行った。作品は、クラスで選考して代表作品を応募した。それ以外の作品に関しても、学級の道徳コーナーなどに掲示し、人権に対する意識を高めた。

## 3 成果

- ・SSTを行ったことで、日常生活で似たような場面に遭遇した場合は、本人が気づかなくても周りからの助言があったり、自ら気がついて自分を戒めたりする様子が見られるようになった。
- ・道徳コーナーには、児童の考えや思いを掲示することから、休み時間などに掲示物を見て会話をする子が見られ、次は自分の考えを掲示してほしいと道徳の授業にも熱心に取り組む児童も増えてきた。
- ・人権メッセージ作りでは、人権の大切さをみんなに呼びかけることで、自らの人権に対する意識を再認識することにつながった。

## II 今後の課題

今年度は、各学年で人権教育活動を実施してきたが、全校的な取り組みには至っていない。今後は校内研修の充実により、人権教育全体計画の共通理解や各学年の実践的な活動の推進を目指して取り組んでいきたい。

## III 人権コーナーの設置

人権コーナーという名称では設置していないが、「道徳コーナー」の中に人権メッセージを掲示したり、道徳「心のあいうえお」という標語を掲示したりしている。

